

## 幼小連携における接続期カリキュラムの設計

間瀬田恵美\*・福島裕子\*\*・鎌田麻里\*\*\*  
三藤三穂子\*\*\*・甲斐かおり\*\*\*・湯地敏史\*\*\*\*

### Design of Curriculums for Connection Period in the Cooperation between Preschools and Elementary Schools

Emi MASEDA\*, Hiroko FUKUSHIMA\*\*, Mari KAMADA\*\*\*  
Mihoko MITO\*\*\*, Kaori KAI\*\*\*, Toshifumi YUJI\*\*\*\*

#### 1 はじめに

2016（平成29）年3月の学習指導要領の改訂により、小学校学習指導要領解説 生活編において、“入学時の子供の発達や学びには個人差があり、それぞれの経験や幼児期の教育を踏まえたきめ細かい指導が求められます。そのためにも、幼稚園教育要領、保育所保育指針等を読んだり、実際に幼稚園・保育所等を訪問し教職員と意見交換をしたり、要録等を活用したりして、幼児期の学びと育ちの様子や指導の在り方を生かしてスタートカリキュラムを編成なども効果的である。”ことが示され<sup>(1)</sup>、小学校における幼児期の育ちや学びを踏まえて、小学校の授業を中心とした学習へうまくつなげるため、小学校入学後に実施される合科的・関連的カリキュラムであるスタートカリキュラム<sup>(2)</sup>の設計が求められた。基本的には、公立学校においては、管理運営が地方自治体であるため、自治体自身の教育委員会が設計することが一般的である。子どもが、幼稚園や保育所から小学校へ移行する際に、校種の段差を乗り越えて滑らかな接続を可能とするためにスタートカリキュラムは検討されてきた。

また、国立大学の教員養成系の附属学校園においては、大学独自の管理運営のため、大学独自でのスタートカリキュラムの設計が必須となる。国立大学の教員養成系の附属学校園については、その多くが教育の一貫性を重視した教育課程であるため、スタートカリキュラムのみでの小学校の教育課程の運営であると、幼稚園との連携が十分に図れない可能性がある。そのため、幼稚園側からの就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習へ適応できるようにするとともに、幼児期の学びが小学校の生活や学習で生かされ、つながるように工夫された5歳児のカリキュラムであるアプローチカリキュラム<sup>(3)</sup>と小学校のスタートカリキュラムとを組み合わせた接続期カリキュラムの設計及び運営が必要となる。

そこで本研究では、宮崎大学教育学部附属幼稚園及び小学校の一貫教育を見据えたアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを組み合わせた接続期カリキュラムを附属学校園独自で設計した。この設計のプロセスについて設計指針とともに設計した接続期カリキュラムの間

---

\*\*宮崎大学教育学部附属小学校 \*\*みらい橋通保育園 \*\*\*宮崎大学教育学部附属幼稚園  
\*\*\*\*宮崎大学教育学部

題点と課題について報告する。

## 2 接続期カリキュラムの概要

既存の研究から横井は、幼小連携における「接続」という言葉の見解として、「幼児教育と小学校教育を滑らかにつなぐ」ことで幼稚園と・小学校双方の「カリキュラムをつなぐ」ことが「接続」の最終的な目標とされると述べている<sup>(4)</sup>。接続期カリキュラムとは、横井が提案するように、幼稚園と・小学校双方のカリキュラムをつなぐための重要なガイドラインとなり得る。文部科学省は、平成29年に改訂された小学校学習指導要領解説総則編（平成29年）第3章・第2節では、“幼児教育との接続の観点から、幼児と触れ合うなどの交流活動や他教科等との関連を図る指導は引き続き重要であり、特に、学校生活への適応を図られるよう、合科的な指導を行うことどの工夫により第1学年入学当初のカリキュラムをスタートカリキュラムとして改善することとした。”と示した<sup>(5)</sup>。これにより、各自治体においては、地域における小学校のスタートカリキュラムの設計を行うことになった<sup>(4)</sup>。例えば、国立教育政策研究所の「スタートカリキュラム スタートセット」では、スタートカリキュラムとは、小学校へ入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムと示している<sup>(6)</sup>。また、1990年後半に横浜市教育委員会が提案した小学校入学前までの年長児の最後の半年におけるカリキュラム編成とした幼児期教育を指す「アプローチカリキュラム」は、幼児期と小学校がスムーズに繋がるための手立てとして、小1プロブレムの予防などを目指し注目されてきた。アプローチカリキュラムは、設計する自治体・学校などにより、定義や表記が様々であり、前述したスタートカリキュラムとアプローチカリキュラムの両方を組み合わせたものを接続期カリキュラムと呼んでいる。一前・秋田は、接続期カリキュラムの開発については、「教育委員会を中心とする自治体が接続期カリキュラムの開発・改善に積極的に関与していくこと」を述べており<sup>(7)</sup>、2017年の国立教育政策研究所のプロジェクト研究である「幼小接続期の育ち・学びと 幼児教育の質に関する研究」の成果を報告書では、接続期カリキュラムは、“自治体や園・学校で作成されているが、目的や取組、接続期の捉え方はそれぞれ異なり、カリキュラムに影響していた。”と指摘されており<sup>(8)</sup>、基本的には、自治体や園・学校が独自に開発することが一般的である。例えば、福元は、接続期カリキュラムの種類には、「学校体系改革アプローチ」と小1プロブレムの予防を目指す「小1プロブレム予防アプローチ」の2種類があり、前述した学校体系改革アプローチでは、“接続の理念や概念が議論となり、実践場面では問題に直面する。”一方で、後述した小1プロブレム予防アプローチでは、“小学校中心に具体的な対処策がその中心となるため現実に生起している課題に対処することができるが、その一方で学校教育の在り方を見渡す視点が弱い。”と述べられている<sup>(9)</sup>。接続期カリキュラムについては、現行でも試行錯誤の設計やカリキュラムの見直し等の研究が数多く行われている<sup>(10)-(12)</sup>。

## 3 アプローチカリキュラムの設計指針

これまで、宮崎大学教育学部附属幼稚園のほとんどの園児は宮崎大学教育学部附属小学校に進学している現状にある。子どもたち（進学した園児）は進学後、小学校の生活に少しずつ適

応しているが、中には適応に時間のかかる／または適応できない子どもの姿も見られてきた。そのことについて、幼稚園の生活が自由すぎるという小学校側からの声も聞かれていた。本当にそれが理由で、子どもの不適応が起こっているのかを検討する時期にきていると感じ、アプローチカリキュラムを作るとともに、幼稚園での生活について見直したいと考える。

現在、附属幼稚園における教育課程は修正を重ねながら編成している。しかし、その教育課程の“何”を“どのように”繋いでいくのかを附属小学校に明らかにしていないことが現状である。そこで、現在の教育課程を見直し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が具体的に示されているのかを確認することが必要であると考えた。子どもは、幼稚園の生活から小学校の生活に移行すると、その違いに段差を感じて戸惑うことが多い。しかし、この段差は、幼児期と児童期の発達特性により教育の目標や内容及び方法、評価が大きく異なるために生じることである。幼稚園として大切に考えているのは、子どもが自分の力で段差を乗り越えていくことができるように、保育の中でより自律的且つ協同的な活動を促し、その活動に挑戦し、達成するような経験を多くしているかを捉えていくことであり、それを踏まえて子どもの育ちを支えていきたいと考えている。また、幼児期の教育と、小学校の教育の違いを附属幼稚園でも把握し、幼児の育ちや幼児を取り巻く環境についての問題点や課題を意識して保育に取り組むための指標づくりをしたいと考えた。同時に、様々な教育を通して幼児期に育った力が、小学校にどのように繋がっていくのかを見通すことが重要であると思われる。

付表1は、設計したアプローチカリキュラムを示す。アプローチカリキュラムを作成する上では、宮崎市の接続期カリキュラム作成の手引き（第1版）<sup>(13)</sup>を参考にした。また、本園の5歳児の指導計画の4期と5期の発達の姿やねらい、内容及び子どもの姿と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連、小学校に向けての配慮や工夫、気になる子どもへの対応、小学校との連携、家庭との連携、評価反省の視点などの項目で編成している。手引きを参考にしながらも、本園独自の項目も挿入し、編成を行うようにした。また、アプローチカリキュラムを設計するにあたり、2017年に改定された幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を中心に軸として設計をした。以下に、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿<sup>(14)</sup>を記載する。

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、き

まりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

#### 4 スタートカリキュラムの設計指針

表1は、大単元「1ねんせいになったよ」(75時間)の計画表を示す。本稿で提案するスタートカリキュラムは、第1学年の入学日から、生活科と各教科等との関連を図りながら、大単元を計画してスタートカリキュラムを設計した。スタートカリキュラムでは、生活面と学習面の2場面を軸として設計を進めた。生活面では「新しい環境に慣れること」及び「小学校と幼稚園・保育園との違いを、スモールステップで埋めていくこと」、「できること・できていたこと



は、自分でさせること」を目標とし、学習面では、幼児期に遊びから学んできたことを配慮し、子どもの意識の流れを重視して、活動を取り入れながら学ぶことを意識させながらスタートカリキュラムを構成した。

表2は、週ごとのテーマを設定した週案の一例を示す。寶地が提案する子どもの成長の姿を週単位でイメージして、段階的に学校生活に適応させるための週ごとのテーマを設定した<sup>(45)</sup>。同表では、第1週目に、期待と不安でいっぱいであることから、不安感の解消を中心に構成した。まず、学校内における身近な場所（靴箱、トイレ、教室）に行き、利用の仕方もあわせて指導した。また、15分間を一区切りとし意識させ、立ったり座ったり、話を聞いたり体を動かしたりと、活動にメリハリをつけるようにした。

付表2は、設計したスタートカリキュラムを示す。スタートカリキュラムでは、各教科のねらいを大切にしながら、他教科等と合科的・関連的に指導が行える内容とし、意図的に組み合わせて学習を行った。また、低学年児童の集中できる時間を配慮し、15分間単位で活動を区切るなど、時間配分についても配慮した。

表1 大単元の計画表

大単元名	1ねんせいになったよ (75時間)		
単元名	みんななかよし (41時間)	せんせいといっしょにがっこうたんけん (17時間)	2ねんせいといっしょにがっこうたんけん (17時間)
生活科	・ともだちをたくさんつくろう	・がっこうをたんけんしよう	・2ねんせいとたんけんしよう
国語	・はきはきあいさつ ・よろしくね ・はじめのいっぽ ・しせいともちかた ・ひらがなのかきかた	・あいうえおのうた ・せいかつにひろげよう ・ひらがなのかきかた	・ともだちにはなそう ・ひらがなのかきかた
算数	・オリエンテーション ・かずとすうじ	・なんばんめ	・いくつといくつ
音楽	・あつまれおんがくなかま	・おんがくにあわせて	・おんがくにあわせて
図画工作	・すきなものなあに		
体育	・固定施設を使った運動遊び	・からだほぐしの運動	
道徳	・あいさつのきもちよさ	・みんながつかうものやばしょ	・たのしいがっこう
学級活動	・がっこうのせいかつ ・さあきゅうしょくがはじまるよ	・はなしのききかた	
学校行事	・入学式	・春の遠足	・ささの葉運動会
備考	・保健室, トイレの場所確認	・運動会練習 ・朝の会, 帰りの会	・清掃の仕方

表2 週案の一例

	8	9	10	11	12
	げつ	か	すい	もく	きん
ぎょうじ			にゅうがくしき	かていほうもん けいかくはいふ	きゅうしょくかいし
あさ せいそう			★ ★	生活・国語・音楽 (各15分)	がっきゅうのじかん
1			がっこうのぎょうじ げんきしらべ おへんじのれんしゅう	みんななかよし 健康観察の仕方 ・トイレ・靴箱の使 い方 ・荷物の片付け方 ・仲間づくりゲーム	体育(45分) みんななかよし ・並び方 ・遊具の使い方 ・校庭で遊ぶ
2			がっこうぎょうじ にゅうがくしき	生活・国語 (各30分) みんななかよし ・並び方 ・廊下の歩き方 ・初めての名前	音楽(30分) みんななかよし ・歌(遊び歌) ・小音楽会の練習
3			がっこうぎょうじ にゅうがくしき	がっきゅうかつどう 下校班編成 (多目的室)	学校の行事(15分) みんななかよし ・当番決め ・帰る用意
4			がっきゅうかつどう がっこうせいかつの すたあと	がっこうのぎょうじ かえるようい	がっきゅうかつどう 給食指導
きゅうしょく			×	×	○
ひるやすみ			×	×	×
5					
げこうよてい			12じ	12じ10ぶんごろ	13じ30ぶんごろ
じゅんぴ				・はんかち ・ちりがみ ・うわぐつ	・はぶらし ・こっぴ ・くれよん ・よごれてもよいふく

## 5 接続期カリキュラムの実現に向けた問題点と課題

ここでは、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを設計する過程で検討が必要である問題点と課題を明記した。まず、アプローチカリキュラムでは、“子どもの育ちの問題点と課題について”検討した。アプローチカリキュラムを設計する上での対象である5歳児の問題点として、“自分の思い通りにいかないときに、我慢することが苦手なことがある。”や“教師の指示が全体場で伝わりにくいことがある”などが挙げられる。同様に、課題としては、“先生の指示が分かり、友達と相談したり協力したりしながら生活する子どもを育てる。”また、“幼稚園と小学校との連携・接続について”の観点から、問題点として“生活科の共同研究として幼小連携は行ってきたが、交流活動を行うために活動の前後の話し合いは行ってきたものの、互いの教育内容を十分に検討することまではできていない”点が挙げられ、課題としても、“幼稚園での育ちが小学校でどのような力になるのかを、確認するために、スタートカリキュラムを作成する”などが挙げられる。

次に、スタートカリキュラムでは、子どもの育ちの問題点と課題について考えると、“幼稚園側と小学校側が十分な情報交換を行っておくことが必要で、幼児期の経験について情報を把

握しておくことで、子どもの実態に合った活動や発問に生かしていくことが可能となる。”ことが挙げられる。また、カリキュラムの設計上、教科等の配列や合科的・関連的な指導はどうであったかの見直しを図り、教育課程全体を俯瞰し、その都度計画の書き換えを行っていく「足跡カリキュラム」<sup>(16)</sup>の設計も必要となっていく。この点については、アプローチカリキュラムについても同様である。これからの接続期カリキュラムの運用においても、教師からの意見や問題点の指摘をどれくらい取り入れていけるのかが本接続期カリキュラムの改善及び十分に活用できる重要な点となると考える。

## 6 むすび

本論文では、附属幼稚園と附属小学校の連続性を見据えた教育内容における接続期カリキュラムを設計した。設計した接続期カリキュラムは、附属幼小接続のためのアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを同時に設計することで実現した。

今後は、設計した接続期カリキュラムにおいて現段階では、運用していく上での問題点や課題は見られるが、小学校での合科的・関連的指導に向けた接続期カリキュラムの編成と幼児期と小学校の教育課程をスムーズに繋ぐことを目指し運用しながら今後も改良を行っていく。

## 参考文献

- (1)文部科学省：「小学校学習指導要領解説 生活編 一平成29年7月」，東洋館出版社 (2018)
- (2)松寄洋子：「幼児教育の学びを生かしたスタートカリキュラムの実践」，千葉大学教育学部研究紀要，第66巻，第2号，pp.91-98 (2018)
- (3)藤谷貴代・橋本忠和：「アプローチカリキュラムの現状と課題についての一考察：埼玉県草加市・大分県・神奈川県横浜市の先行事例の分析を通して」，北海道教育大学紀要（教育科学編） pp.245-256 (2017)
- (4)横井紘子：「幼小連携における「接続期」の創造と展開」，お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要，第4巻，pp.45-52 (2007)
- (5)文部科学省：「小学校学習指導要領解説 総則編 一平成29年7月」，東洋館出版社 (2018)
- (6)文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター：「スタートカリキュラム スタートブック」，pp.1-17(2015)
- (7)一前春子・秋田喜代美：「人口規模の観点からみた地方自治体の保幼小連携体制作り」，国際幼児教育研究第20巻，pp.97-110 (2012)
- (8)国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部長(併) 幼児教育研究センター長 研究代表者 渡邊恵子：「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究<報告書>」，pp.1-192 (2017)
- (9)福元真由美：「幼小接続カリキュラムの動向と課題—教育政策における2つのアプローチ—」，教育学研究，第81巻，第4号，pp.396-407 (2014)
- (10)杉山直子：「接続期カリキュラム：幼児教育から小学校教育へ」，広島都市学園大学子ども教育学部紀要，第3巻，第1号，pp.33-42 (2016)
- (11)木村吉彦監修・仙台市教育委員会編：「「スタートカリキュラム」のすべて仙台市発信・幼小連携の新しい視点」，ぎょうせい (2010)
- (12)山口美和：「幼保小連携における「接続期カリキュラム」の意義と課題」，長野県短期大学紀要，第70号，pp.155-167 (2015)
- (13)宮崎市福祉部子ども未来局保育幼稚園課・宮崎市教育委員会学校教育課：「宮崎市接続期カリキュラムの手引き— 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指して —【第1版】」(2017)
- (14)文部科学省：「幼稚園教育要領解説 一平成30年3月」，フレーベル館 (2018)
- (15)寶地拓也：「生活科を核としたスタートカリキュラムの実践」，鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要，第28巻，pp.265-271 (2019)

- (16)鈴木一成・小岩 大・佐藤洋平・神山雅美・森 潤子・菊池圭子・芝田千香子・渡辺行野・堀口純平・萩野 聡・上野敬弘・竹井秀文・徳富健治：「竹早地区幼少中連携研究における主体性の育成と連携カリキュラムの位置づけに関する一考察」, 東京学芸大学附属学校研究紀要, 第42号, pp.99-108 (2015)



付表1 設計したアプローチカリキュラム

☆5歳児修了時までには育ってほしい「10の姿」(1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え (5)社会生活との関わり (6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量・図形、文字等への関心・感覚 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現

	4期(12月・1月)	5期(2月・3月)
発達	友達と目的をもって活動に取り組みながら、様々な出来事を活動に取り込み、創意工夫して遊ぶようになる。	友達同士で目的をもって幼稚園生活を展開し、深めていくようになる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達とよきよき関係を築く。</li> <li>○ 友達と話し合ったり協力したりして遊びを進める。</li> <li>○ 一日の生活の流れが分かり、自分たちで進めようとする。</li> <li>○ 冬・自然を遊びに取り入れる。</li> <li>○ 冬・自然を遊びに取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いろいろな友達のことを知り、一緒に過ごす楽しさを味わう。</li> <li>○ 自分たちが園生活を楽しくしようとする。</li> <li>○ 春を迎える自然の変化に気付いたり、工夫したり協力したりしながら遊びを進める。</li> <li>○ 考えを出し合いながら集団活動をより楽しむ。</li> <li>○ 進歩することに喜びをもつ。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを表現したり友達の考えを受け入れたりしながら、互いの気持ちを知らうとする。</li> <li>○ 自分たちで生活や遊びの場を整えようとする。</li> <li>○ 病気の予防の仕方を知り、進んで行う。</li> <li>○ 気温の低下に伴う自然の変化を知る。</li> <li>○ 体を十分動かしたり、季節の遊びに取り組んだりする。</li> <li>○ タンゴの練習に喜んで参加し、達成感を味わう。</li> <li>○ 新しい遊びにも挑戦し、達成感を味わう。</li> <li>○ 遊びを進める中で、友達と一緒に、約束を守ったり、工夫したり協力したりする。</li> <li>○ かるたやすごろくなど正月の遊びを通して、数や文字などに親しむ。</li> <li>○ 遊びに必要な材料や用具を通して、数や文字などを覚えて遊ぶ。</li> <li>○ 遊びに必要な材料や用具、場所などを自分たちで整えて遊ぶ。</li> <li>○ (集団活動・交流活動)</li> <li>○ 課題に取り組みながら達成感や充実感を味わう。</li> <li>○ 自分から1年生とかわりをもとうとする。</li> <li>○ 中学生と遊ぶ経験をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達の気持ちや考えを受け入れて、話し合いながら生活する。</li> <li>○ スムーズな園生活のために、一日の生活の流れを見通して、進んで行動する。</li> <li>○ 病気の予防の仕方を知り、進んで行う。</li> <li>○ 春の芽生えを感じるような様々なものに触れ、自然の移り変わりを感じる。</li> <li>○ 多くの友達とルールのある遊びを十分に楽しむ。</li> <li>○ 共通の目的に向かって、工夫したり協力したりする楽しさや充実感を味わう。</li> <li>○ 遊びの中で数や文字などを使う喜びを味わう。</li> <li>○ 遊びに必要な材料や用具、場所などを自分たちで整えて遊ぶ。</li> <li>○ (集団活動・交流活動)</li> <li>○ 卒園式練習を通して、進学に向けて期待感を抱く。</li> <li>○ 小学校にいる人や環境を知る機会をもち、進学を楽しみにする。</li> </ul>
子どもの姿と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見が通らずに納得できないことがある。 (1)(9)</li> <li>・ 自分より上手なことを見ると、羨ましいと思う。 (1)(9)</li> <li>・ 自分の考えを伝え、友達の考えにも耳を傾け、分かちあう。 (1)(9)</li> <li>・ いろいろな友達と遊ぶ。 (1)(9)</li> <li>・ 遊ぶ場所、弁当やおやつを食べる場所などを自分たちで整える。 (2)(6)</li> <li>・ 水や雷の不思議さや楽しさを自分から話す子もいる。 (3)(7)</li> <li>・ 時季の遊びとして楽しむ。 (8)(9)</li> <li>・ 楽しく遊ぶ子もいる。 (8)(9)</li> <li>・ 葉っぱで遊ぶ。 (8)(9)</li> <li>・ ショーゴッコやお店やごっこなどいろいろな友達を招待し、楽しもうとする。 (6)(9)(10)</li> <li>・ 科学技術館では、約束を守りながら行動し、遊ぶ中で様々な発見を楽しむ。 (5)(6)(8)</li> <li>(運動遊び)</li> <li>・ 今まで体験したルールを元にしながらいじめやいじめの鬼遊びを考え、そのルールを伝え合い、楽しもうとする。 (1)(2)</li> <li>(3)(4)</li> <li>・ 縄跳びや鬼遊び、ドッチボールなどの遊びに参加していきなかつた子もいる。 (3)(6)(9)</li> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (2)(10)</li> <li>・ ムーブメントのダンス練習に喜んで参加したり、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな友達と一緒に生活できることを喜ぶ。 (1)(9)</li> <li>・ 自分の考えを相手に分かるように話したり、友達の考えを受け入れたりする。 (5)(9)</li> <li>・ 生活の中で見聞きしたいろいろな出来事や情報、自分の思いなどを友達や先生に話す。 (5)(9)</li> <li>・ 着替えるときに自分から遊びに加わったり、友達を誘ったりしながら多くの友達と一緒に遊ぶ。 (2)(3)(9)</li> <li>・ 園生活の見通しや時間が分かり、自分で考えて行動するようになる。 (1)(2)</li> <li>・ 友達と一緒に園内のいろいろな場所の片付けをする。 (3)(4)</li> <li>・ 健康に気を付けて遊ぶ。 (1)(2)</li> <li>・ 水やりをしながら冬野菜の生長を楽しむ。 (1)(2)</li> <li>・ チューリップ、クロッカス、ムスカリ、アネモネ、ヒヤシンスなど、自分から水やりをしながら生長を確認する。 (7)</li> <li>・ 水や霜柱、ツクシ、ヨモギなどを見つけて観察したり採集したりする。 (7)</li> <li>・ いろいろなごっこ遊びやお互いの授業を受け入れ合ったり、必要な物を自分たちで考えて準備したりして、一つの遊びにじっくり取り組む。 (3)(5)(6)(8)(9)(10)</li> <li>・ 縄跳びや手紙のやりとり、お部屋ごっこなど、数や文字に馴染みをもつて読んだり書いたりする。 (3)(5)(6)(8)(9)</li> <li>(運動遊び)</li> <li>・ 縄跳びや鬼遊び、ドッチボールなどの遊びを、友達と一緒に楽しむ。 (6)(8)(10)</li> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (2)(10)</li> <li>・ ムーブメントのダンス練習に喜んで参加したり、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> </ul>
小学校での配慮や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ ムーブメントのダンス練習に喜んで参加したり、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ ムーブメントのダンス練習に喜んで参加したり、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> </ul>
気づく子どもの声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ ムーブメントのダンス練習に喜んで参加したり、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ ムーブメントのダンス練習に喜んで参加したり、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> </ul>
小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ ムーブメントのダンス練習に喜んで参加したり、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ ムーブメントのダンス練習に喜んで参加したり、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> </ul>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ ムーブメントのダンス練習に喜んで参加したり、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ 友達と一緒に話し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ ムーブメントのダンス練習に喜んで参加したり、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> </ul>
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども一人一人が自分のことを周りに伝えるように練習を行ったか。</li> <li>・ 自分のおもちゃを周りに貸すように練習を行ったか。</li> <li>・ 子どもの成長を十分に受け入れながら保育を行うようになっているか。</li> <li>・ 寒くても戸外で遊ぶ子も一緒に活動できたか。</li> <li>・ 子ども同士の間で遊ぶ子も一緒に活動できたか。</li> <li>・ 子ども同士の間で遊ぶ子も一緒に活動できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども同士で考えを出し合いながらの遊び、好きな遊びの中で自分たちで練習を楽しくする。 (10)</li> <li>・ 子どもが困っている場面でも子どもが納得する援助ができていたか。</li> <li>・ 子どもの成長を十分に受け入れながら保育を行うようになっているか。</li> <li>・ 寒くても戸外で遊ぶ子も一緒に活動できたか。</li> <li>・ 子ども同士の間で遊ぶ子も一緒に活動できたか。</li> <li>・ 子ども同士の間で遊ぶ子も一緒に活動できたか。</li> </ul>

